

5.10 動物

5.10.1 陸域動物

1. 調査

(1) 既存資料調査

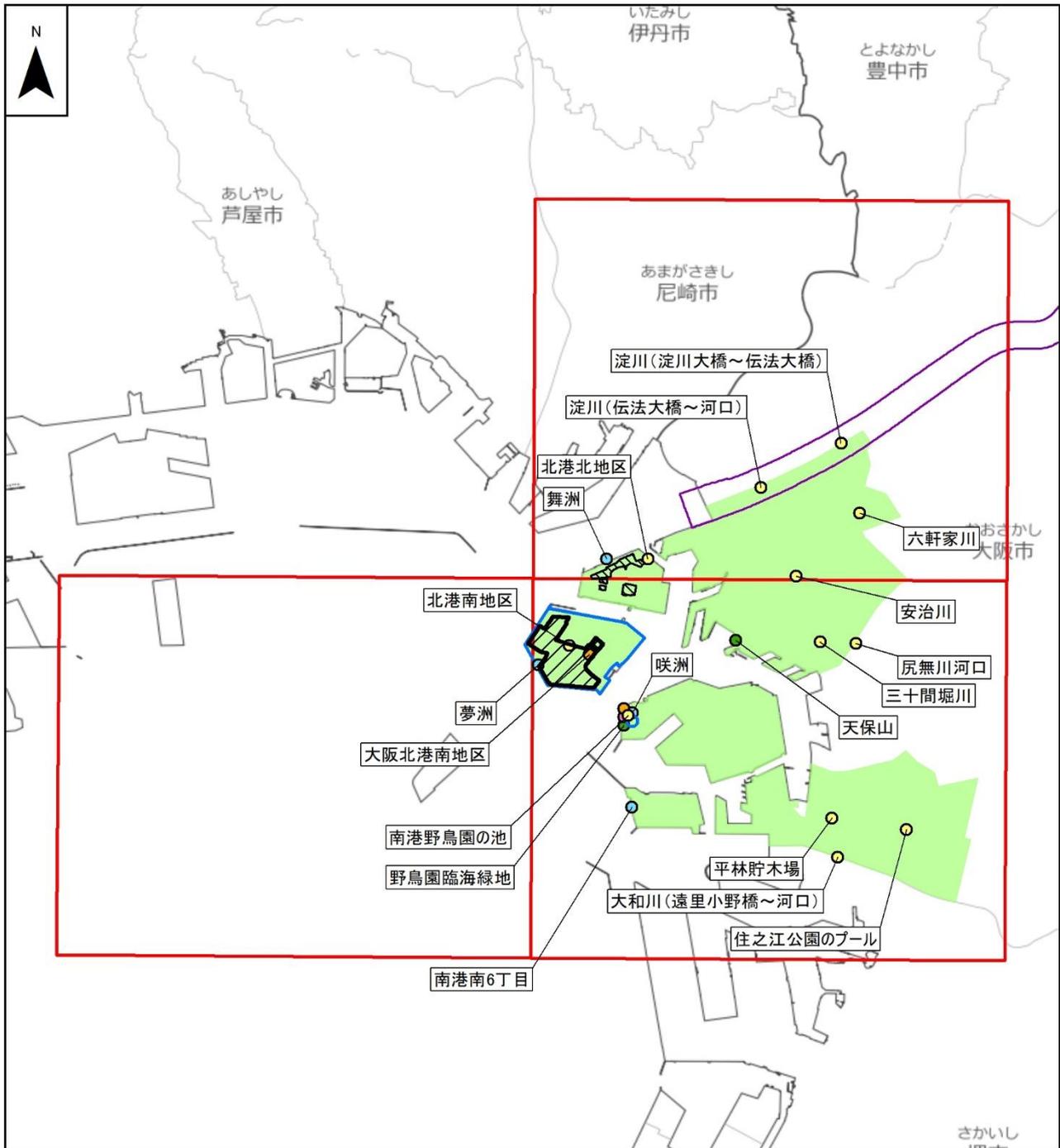
① 調査資料及び調査範囲

調査した既存資料は表 5.10.1、既存資料調査範囲は図 5.10.1 に示すとおりである。

表 5.10.1 既存資料一覧（陸域動物）

No.	既存資料	対象分類群					対象データの範囲
		哺乳類	鳥類	爬虫類	両生類	昆虫類	
1	「第2回自然環境保全基礎調査」 (環境庁、昭和55～57年)	○	○			○	会場予定地及び(仮称)舞洲駐車場予定地を含むメッシュ
2	「第3回自然環境保全基礎調査」 (環境庁、昭和63年)		○				会場予定地及び(仮称)舞洲駐車場予定地を含むメッシュ
3	「第4回自然環境保全基礎調査」 (環境庁、平成5～7年)	○		○	○	○	会場予定地及び(仮称)舞洲駐車場予定地を含むメッシュ
4	「第5回自然環境保全基礎調査」 (環境庁、平成13～14年)	○		○	○	○	会場予定地及び(仮称)舞洲駐車場予定地を含むメッシュ
5	「第6回自然環境保全基礎調査」 (環境省、平成16年)	○					会場予定地及び(仮称)舞洲駐車場予定地を含むメッシュ
6	「モニタリングサイト1000 シギ・チドリ類調査」 (環境省、令和3年6月閲覧)		○				大阪南港野鳥園、大阪北港南地区
7	「河川環境データベース 河川水辺の国勢調査」 (水情報国土データ管理センター、令和3年6月閲覧)	○	○	○	○	○	淀川の「淀淀淀1(淀川河口～菅原城北大橋)」の区間
8	「平成30年度 野鳥園臨港緑地干潟・湿地環境保全事業 事業報告書」 (大阪市、平成31年)		○				野鳥園全域と、展望塔から目視可能な海上を含む範囲
9	「大阪湾生き物一斉調査情報公開サイト」 (大阪湾環境再生連絡会、令和3年6月閲覧)		○				天保山、野鳥園臨港緑地
10	「大阪港新島地区埋立事業及び大阪沖埋立処分場建設事業に係る事後調査報告書」 (国土交通省他、平成31年)		○				報告書に示された、舞洲、夢洲、咲洲、南港南6丁目の各1地点における定点調査範囲
11	「メッシュマップ大阪市の生き物：分野別調査報告書」 (大阪市、平成10年)	○	○	○	○	○	港区、此花区、住之江区を含むメッシュ
12	大阪の生物多様性ホットスポット -多様な生き物たちに会える場所- (大阪府、平成28年)		○				南港野鳥園・夢洲
13	第52回ガンカモ類の生息調査報告書 (令和2年度) (環境省、令和3年)		○				港区、此花区、住之江区に含まれる12調査地点
14	公益社団法人大阪自然環境保全協会提供資料 (令和3年)		○				夢洲の会場予定地付近

注：会場予定地及び駐車場予定地を含むメッシュは図 5.10.1 に示す2次メッシュ「513572 西宮(南)」 「513573 大阪西南部」 「523503 大阪西北部」を示す。



凡 例

-  会場予定地
-  (仮称)舞洲駐車場予定地

- | | |
|--|---|
|  既存資料1～5の調査範囲 |  既存資料11の調査範囲 |
|  既存資料6の調査地点 |  既存資料12の調査地点 |
|  既存資料7の調査範囲 |  既存資料13の調査地点 |
|  既存資料8の調査地点 | |
|  既存資料9の調査地点 | |
|  既存資料10の調査地点 | |

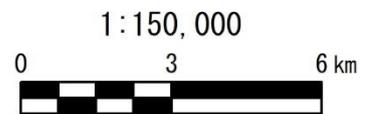


図 5.10.1 既存資料調査範囲

② 調査結果

確認された陸域動物は表 5.10.2 のとおりであり、哺乳類は 5 目 7 科 11 種、鳥類は 16 目 44 科 171 種、爬虫類 2 目 2 科 2 種、両生類 1 目 1 科 2 種、昆虫類 11 目 126 科 473 種であった。

表 5.10.2 既存資料調査結果

項目	確認種数	主な種名
哺乳類	5 目 7 科 11 種	モグラ属、アブラコウモリ、ニホンザル、ハタネズミ、ハツカネズミ、クマネズミ、ドブネズミ、ヌートリア、タヌキ、ノリス、チョウセンイタチ
鳥類	16 目 44 科 171 種	コジュケイ、ツクシガモ、カイツブリ、アカオネツタイチョウ、カワラバト(ドバト)、カワウ、ヨシゴイ、ヘラサギ、クイナ、ホトトギス、タゲリ、セイタカシギ、タシギ、タマシギ、ツバメチドリ、ユリカモメ、ミサゴ、トビ、トラフズク、カワセミ、アリスイ、チョウゲンボウ、オキナインコ、サンコウチョウ、モズ、カケス、キクイタダキ、ツリスガラ、ヤマガラ、ヒバリ、ショウドウツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、オオムシクイ、メジロ、オオヨシキリ、セッカ、ハッカチョウ、クロツグミ、スズメ、ベニスズメ、キセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ、カシラダカ等
爬虫類	2 目 2 科 2 種	ミシシippアカミミガメ、ニホンカナヘビ
両生類	1 目 1 科 2 種	ウシガエル、ツチガエル
昆虫類	11 目 126 科 473 種	アカマダラカゲロウ、ショウジョウトンボ、ハラビロカマキリ、オオハサミムシ、セスジツユムシ、ウスイロササキリ、ヒロバネカントン、カネタタキ、マダラスズ、ショウリョウバッタ、コバネイナゴ、オンブバッタ、フタモンホシカメムシ、ホソハリカメムシ、スカシヒメヘリカメムシ、イトカメムシ、マルカメムシ、オオキンカメムシ、アメンボ、ミズカメムシ、コマツモムシ、ミズカゲロウ、チャミノガ、イラガ、タケノホソクロバ、イチモンジセセリ、ムラサキツバメ、アオスジアゲハ、モンキチョウ、ツトガ、キモントガリメイガ、ユウマダラエダシヤク、エビガラスズメ、モンクロシャチホコ、ミイデラゴミムシ、マメゲンゴロウ、コツブゲンゴロウ、ヒメガムシ、コクワガタ、アオドウガネ、タマムシ、サビキコリ、ヒメマルカツオブシムシ、フタモンテントウ、ケナガセマルキスイ、ウスバカミキリ、エゾヒメゾウムシ、ルリチュウレンジ、ハマキアリガタバチ、オオハリアリ、キボシトックリバチ、ニホンミツバチ等

(2) 現地調査

① 調査内容

夢洲及び舞洲における動物の状況を把握するため、現地調査を実施した。

調査の実施にあたっては、調査方法・時期について有識者にヒアリングを実施し助言を得て、鳥類について、繁殖期の調査時期を前期・後期の2回に分けて6回/年の調査とした。

調査概要は表 5. 10. 3、調査方法の詳細は表 5. 10. 4、重要な種の生態等に関する参考文献は表 5. 10. 5、現地調査地点の位置は図 5. 10. 2 に示すとおりである。

表 5. 10. 3 調査概要（陸域動物）

調査項目	調査範囲	調査対象期間		調査方法
哺乳類	夢洲・舞洲	冬季	令和2年2月3日～5日	任意調査 トラップ調査
		春季	令和2年5月11日～12日、14日～15日	
		夏季	令和2年6月12日、7月27日～31日	
		秋季	令和2年9月23日～25日、29日～30日	
		冬季	令和3年1月18日	
鳥類	夢洲・舞洲	冬季	令和2年2月3日～4日	ルートセンサス調査 定点調査 任意調査
		春季	令和2年4月20日～21日	
		繁殖前期	令和2年5月12日、14日	
		繁殖後期	令和2年6月22日～23日、25日～26日	
		夏季	令和2年7月30日～31日	
		秋季	令和2年9月23日～24日	
		冬季	令和3年1月18日～19日	
爬虫類 両生類	夢洲・舞洲	春季	令和2年5月14日～15日	任意調査
		夏季	令和2年6月12日、7月30日～31日	
		秋季	令和2年9月29日～30日	
昆虫類	夢洲・舞洲	春季	令和2年5月11日～12日、14日～15日	任意調査 ベイトトラップ調査 ライトトラップ調査
		夏季	令和2年6月12日、7月27日～31日	
		秋季	令和2年9月23日～25日	
底生生物	夢洲	冬季	令和2年2月3日	定性採取 定量採取
		春季	令和2年5月14日	
		夏季	令和2年7月17日	
		秋季	令和2年9月28日	

表 5.10.4 調査方法詳細

調査項目	調査方法	内容
哺乳類	任意調査	調査範囲を任意に踏査し、哺乳類のフィールドサイン(足跡、糞、死体、食痕等の生息痕跡)及び個体の直接観察により種名を記録した。
	トラップ調査	シャーマントラップ(小型哺乳類を生け捕りにする折りたたみ式の捕獲罠)を用いて、ネズミ類等を捕獲し、種名や形態等を記録した。トラップは1地点あたり20個を一晩設置した。餌はピーナッツを用いた。 夢洲の5地点、舞洲の5地点の計10地点(MT-1~10)で実施した。
鳥類	ルートセンサス調査	1.5~2km/h程度の速度であらかじめ設定したルート上を歩き、倍率8~10倍程度の双眼鏡を用いて、目視及び鳴き声等により確認した種名と個体数を記録した。調査の範囲はルートの両側50m(片側25m)程度の範囲とした。 夢洲の3ルート、舞洲の2ルートの計5ルート(BR-1~5)で実施した。
	定点調査	調査地点において30分程度の間、倍率20~50倍程度の望遠鏡や倍率8~10倍程度の双眼鏡を用いて、目視及び鳴き声等により確認した鳥類の種名と個体数を記録した。 夢洲7地点、舞洲4地点の計11地点(BP-1~11)で実施した。
	任意調査	調査範囲内を任意に踏査し、倍率8~10倍程度の双眼鏡を用いて、目視及び鳴き声等により確認した鳥類の種名と個体数を記録した。
爬虫類 両生類	任意調査	調査範囲内を任意に踏査し、個体の直接観察により種名を記録した。
昆虫類	任意調査	調査範囲内を任意に踏査し、個体の直接観察の他、捕虫網等による捕獲により、種名を記録した。
	ライトトラップ調査	調査範囲内の代表的な植生を考慮し、紫外線灯(ブラックライト蛍光灯によるBOX法)を用いてトラップに入った昆虫類を採取した。トラップは1地点あたり1台を一晩設置した。 夢洲5地点(I-1~5)、舞洲5地点(I-6~10)の計10地点で実施した。
	ベイトトラップ調査	地上を徘徊する昆虫類を対象に、代表的な植生を考慮した地点を選定し、餌(コーラと食酢の混合物)を入れたプラスチックコップを埋め、一晩放置した後に回収した。トラップは1地点あたり10個設置した。 夢洲5地点(I-1~5)、舞洲5地点(I-6~10)の計10地点で実施した。
底生生物	定量採取	水辺環境の調査地点において、水生昆虫や底生生物を25cm四方のコードラフト付きサーバーネットで採取し、持ち帰って種名と個体数、湿重量を記録した。 夢洲の2地点(BA-1, 2)で実施した。
	定性採取	水辺環境の調査地点において、水生昆虫や底生生物をタモ網やサーバーネットで採取し、持ち帰って種名と個体数を記録した。 夢洲の2地点(BA-1, 2)で実施した。

表 5.10.5 重要な種の生態等に関する参考文献

項目	参考文献
陸域動物	<p>「フィールドベスト図鑑 日本の哺乳類」(学習研究社、平成 14 年)</p> <p>「大阪府野生生物目録」(大阪府、平成 12 年)</p> <p>「大阪府における保護上重要な野生生物—大阪府レッドデータブック—」(大阪府、平成 12 年)</p> <p>「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(保育社、平成 7 年)</p> <p>「決定版 日本の野鳥 650」(平凡社、平成 26 年)</p> <p>「原色爬虫類・両生類検索図鑑」(北隆館、平成 23 年)</p> <p>「京都府レッドデータブック 2015」(京都府、平成 27 年)</p> <p>「レッドデータブック 2014 日本の絶滅のおそれのある野生生物 5 昆虫」(環境省、平成 26 年)</p> <p>「ネイチャーガイド日本の水生昆虫」(文一総合出版、令和 2 年)</p> <p>「国土技術政策総合研究所資料 No. 906 道路環境影響の技術手法「13. 動物、植物、生態系」における環境保全のための取り組みに関する事例集(平成 27 年度版)」(国土交通省国土技術政策総合研究所、平成 28 年)</p> <p>「大阪府鳥類目録 2001」((財)日本野鳥の会大阪支部、平成 14 年)</p> <p>「日本動物大百科 鳥類Ⅱ」(平凡社、平成 9 年)</p>